

学 校 名	港区立青南小学校
コーディネーター数	1人(元青南小学校教員)
ボランティア数	7人(保護者)

□ 活動の概要

〈学芸発表会ボランティア〉

青南小学校では、毎年秋に実施される「学芸発表会」会場の混雑に困っており、円滑に行うためには、観客・保護者を会場に誘導し、座席へ案内する「誘導係」をつくる必要があった。

そこで、観客を誘導する「学芸発表会ボランティア」を保護者に募集することを、地域コーディネーターが校長・学芸会委員長に提案し、了承を得た。

募集の結果、7名の保護者から申し出があり、誘導・受付などの活動を通して、「学芸発表会」の円滑な運営に携わっていることを肌で感じながら、楽しく活動する保護者ボランティアの姿が見られた。

□ コーディネーターの役割

地域コーディネーターは当該校の旧教職員である。その経験を生かして、「出前授業」の紹介を中心に学校支援活動を開始した。まずは「学芸発表会」に焦点を絞り、教員の負担をできるだけ軽減し、円滑な運営を進めるためには、地域コーディネーターとして何が出来るかを校長、副校長、学芸学芸会委員長に相談しながら、下記の事項について提案し、準備・実施してきた。

- (1) 「学芸発表会」に向けて、一学期・夏休み中の演技指導等のワークショップ(子供向け、教員向け)開催を提案し、実施した。
- (2) 「青南応援団だより」の発行を通して、コーディネーターの活動や思いを紹介するとともに、「学芸発表会ボランティア」の募集を行った。その際に、ボランティアの仕事内容や分担が分かるように、印刷物を準備した。

□ 活動上の工夫や配慮等

- (1) 第一回青南小地域学校応援団運営協議会(※)において、学芸発表会ボランティアの募集等についての共通理解を図った。
※ 地域関係者(元PTA会長)、PTA関係者(PTA会長)、校長、副校長、地域コーディネーター、学校支援統括コーディネーター、支所協働推進課職員、生涯学習推進課(事務局)で構成されている。
- (2) ボランティア用の腕章を準備し、活動しやすいようにするとともに、ボランティア自身の子供の演目が見られるように活動時間を配慮した。

□ 活動の成果や感想 (実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など)

- ・ 保護者の会場出入口が一か所になったために混雑が予想されたが、ボランティアの声かけや通行整理する活動で特に問題は感じられなかった。参観の保護者の中には、ボランティアの活動に気づき、「ご苦労様」と、声かけをしてくれる人もいた。
- ・ 校長、副校長、学芸会委員長から、「ボランティアのお陰で、とても助かりました。」と、ボランティアの方々へのねぎらいの言葉があった。
- ・ 次回の学芸会の参考資料として、受付場所や表示、活動の様子等を写真に撮り、記録として学芸会委員長へ渡した。